

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.199

2018年12月25日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

子どもたちとつくる人権の授業

人権教育部会

人権教育部会が猪名川町で6年生の授業研究会をおこないました。「手品師」(道徳教科書)の教材を使い、「誠実さには様々あり、どれも大切な考えであることを知る」というねらいで、授業がすすめられました。単元構想としては4時間扱いとし、児童が自分の将来について考えるキャリア教育を2時間取り入れ、その後2時間を教材について考える授業としておこなわれました。



児童の提案により、授業の初めに児童と教員が肩を組み輪になって、「ビリーブ」を歌うことから始まりました。その後、児童が司会をおこない、前時のふり返りとして男の子や友人の手品師に対する思いを確認しました。

「あなたが手品師なら、みんながしあわせになるためにどうしますか?」の問いかけに、児童一人ひとりが、タブレット端末で自分の考えを書きました。交流をする前に、一つの班で交流の仕方をクラスの全員が見るというモデル学習をおこない、意見交流の方法を学びました。全体の交流として、「誰に対して誠実なのか」を考え、①男の子に対して、②友人に対して、③手品を見に来る人に対して、④みんなに対して、の4つに分かれて自分の考えを出し合い交流を深めました。

最後に、全員が自分なりの「誠実とは何か」を考え、黒板に貼り出すことで意見交流をおこないました。個人の考えをまとめること、班での交流、全体での交流等の多様な形態が取り入れられていること、ICT機器、「ファイン!付箋」(どこが素敵なのかを付箋に書いて交換する)やノート等のツールを使いながら、自分の考えが深められるように工夫していることが特徴的な授業でした。

授業後の研究協議では、「書くことに集中して、自分の思いを書こうとしていた」、「児童が他の人の意見を大事にしている、多様な意見が出せる学級集団づくりができていた」という意見が出ました。「教科書の中だけの話になり、日常生活に戻ると判断できないという現状があり、道徳は生活とリンクしそうなところを取り上げる必要がある」という意見も出ました。道徳が教科化されて、「最初はどうしようという感じだったが、子どもたちと今日のように多様な視点から考える、一人ひとりを大切にしたい意見交流をするこ



とで、案外子どもたちと一緒に授業を作っているなという印象を持った」という授業者の意見が印象的でした。また、協力研究所員からは、「手品師」が扱われている中学校の教科書があり、「小学校で学んだことをもう一度学び直したら、あなたはどんなことを感じたり考えたりするでしょうか」と書かれていることを教えてもらいました。また、原作に立ち返り、きちんと教材を読むことの大切さも示唆してもらいました。